

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 1 「経済財政運営と改革の基本方針 2023」(内閣府、2023 年)に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.三位一体の労働市場改革では、企業経由による学び直し支援策により、リ・スキリングを行い、職務を選択できる制度に移行していくことが重要である。
- 2.雇用調整助成金については、休業よりも教育訓練による雇用調整を選択しやすくなるよう助成率等の見直しを行う。
- 3.求職・求人に関して官民が有する基礎的情報を加工、集約、共有し、キャリアコンサルタントがそれに基づき、働く方々のキャリアアップや転職の相談に応じられる体制の整備に取り組む。
- 4.賃上げの流れの維持・拡大を図るため、我が国の雇用の 7 割を占める中小企業が賃上げできる環境の整備に取り組む。

問 2 「令和 5 年版労働経済の分析」(厚生労働省、2023 年)で示された「賃金引上げによる経済への効果」に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.企業の欠員率(常用労働者数に対する未充足求人数の割合)の推移をみると、企業規模にかかわらず 2010 年以降、下降傾向で推移している。
- 2.労働組合の存在は、フルタイム求人でも、パートタイム求人においても、求職者の応募にもマイナスに寄与する傾向がある。
- 3.フルタイム労働者の現在の勤め先を選んだ理由は、「労働条件がよい」の割合が最も高い。
- 4.年収の増加は、労働者の仕事へのモチベーションを高め、労働者のワーク・エンゲイジメントの向上や自己啓発の促進につながる傾向がみられる。

第 27 回対策「みん合☆総仕上げ模試」

問 3 「働く環境の変化に対応できるキャリアコンサルタントに関する報告書」(厚生労働省、2021 年)に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.労働者個々人の自律的・主体的なキャリア形成を促すためには、キャリアコンサルタントは経営者層へのアプローチなど企業への提案力、人事担当部署との協業をする能力は必要ない。
- 2.特に中高年のキャリア支援においては、ライフプラン(家計の問題、住宅、教育等)とキャリアの課題は切り離して捉えるべきであり、ファイナンシャルプランナーとの連携は不要と考えられる。
- 3.オンライン活用によるキャリアコンサルティングの際の留意点として、特に支援の最終段階においてはオンラインによるキャリアコンサルティングが有効と考えられている。
- 4.内部労働市場を念頭においた場合には、特に若年層など、働く人のリテンションを高める機能がキャリアコンサルタントに期待される。

問 4 シャインの理論に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.組織と人の相互作用を重視しており、組織も個人も成長し続ける存在であるという発達の視点に根ざしている。
- 2.組織の三次元モデルの垂直的な移動は、組織内メンバーシップの増大、部内者化を表している。
- 3.内的なキャリアを明らかにするのに役立つのは、キャリア・アンカーであり、外的なキャリアを明らかにするのに役立つのが組織の三次元モデルであると捉えることができる。
- 4.職務・役割分析と職務・役割プランニングを行い、明らかとなった自身のキャリア・アンカーを現実の仕事として実現していくことを、キャリア・サバイバルという概念で示している。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 5 多文化・社会正義論に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.リチャードソンは、スーパーのキャリア発達理論は、アメリカの白人男性中流階級を中心としたものであると指摘した。
- 2.フアドは、キャリア支援で使用するアセスメントは、合理的・論理的・直線的に問題解決や目標設定を強調しすぎるとし、異文化キャリアアセスメント論を主張した。
- 3.アーサーは、カウンセラー自身が文化的なアイデンティティを自覚する必要性を説き、文化を取り入れたキャリアカウンセリングモデル(Culture-Infused Career Counseling:CICC)を提唱した。
- 4.ワッツは、下位の階層(ローワー)の若者は「忘れられた半分」であり、キャリア支援で最も重要な要因は社会階層であるとした。

問 6 ナラティブアプローチ・キャリア構築理論に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.スーパーは、過去の職歴などのデータを解釈してテーマ(主題)を抽出し、そのテーマと典型的なキャリアパターンを照らし合わせて将来を予測する、主題外挿法を提唱した。
- 2.コ克蘭は、適切な雇用とは単にマッチングするだけではなく、あるドラマの中で、あるキャラクターを演じることができる適切な乗り物であると表現している。
- 3.ジェブセンは、キャリア構築インタビューとして、カウンセリングの初期に、クライアントのロールモデル、楽しみにしている雑誌やテレビ番組、お気に入りの本、モットー、幼少期の記憶の質問を行う。
- 4.サビカスは、キャリアアダプタビリティは関心、統制、好奇心、自信の 4 つの次元から構成されているとした。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 7 社会的学習理論に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- 1.バンデューラは、自己効力感を高める 4 つの情報源として、遂行行動の達成、言語的説得、代理的体験、情動的喚起があるとした。
- 2.バンデューラは、モデリングによる学習の過程を、注意過程、保持過程、運動再生過程、動機づけ過程の順で整理した。
- 3.レント、ブラウン、ハケットはバンデューラの自己効力感や三者相互作用の考え方に基づいた、社会認知的キャリア理論 (Social Cognitive Career Theory: SCCT) を開発した。
- 4.クランボルツは、個人のキャリア意思決定に影響を与える要因として、遺伝的な特性・特別な能力、環境的状况・環境的出来事、直接経験、課題接近スキルの 4 つをあげている。

問 8 キャリアに関する理論に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- 1.ジェラットは、職業に対する好みやコンピテンシー、生活や仕事をする状況は、時間や経験とともに変化し、それゆえ自己概念も変化していくとした。
- 2.ハンセンは、関係性アプローチの視点から、相互依存的な人間関係の中で変幻自在なキャリア (protean career) を築いていくとした。
- 3.ホールは、統合的人生設計の概念を提唱し、6 つの重要な人生課題を提示している。
- 4.ヒルトンは、認知的不協和理論を意思決定プロセスに応用し、キャリア意思決定モデルを提唱した。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 9 カウンセリングのアプローチの種類に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- 1.感情的アプローチにおけるカウンセリングの重点は、1対1の人間関係の質を高めることに置かれる。
- 2.行動的アプローチでは、問題が起きるのは、非合理的な思考によって考えたり、行動したりするときであるとされる。
- 3.認知的アプローチでは、個人の問題行動は、不適切な行動の学習、適切な行動の未学習によって起こるとされる。
- 4.包括的・折衷的アプローチは、キャリアカウンセリングには最もふさわしくないアプローチとされる。

問 10 カウンセリングの理論や心理療法に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- 1.自動思考とスキーマの間の交流のはざまに生じる認知のゆがみを低減させていくことを目標とするのは、バーンの交流分析である。
- 2.身近な人について「してもらったこと、して返したこと、迷惑をかけたこと」を想起して、自らの自己中心性を自覚し、周囲の愛情に気づき、本来の自己を取り戻すことを目指すのは、吉本伊信の内観療法である。
- 3.自分と他人との交流のパターンに着目し、自我状態(自分のあり方)に気づくことで、過去に縛られない自律的な自己の再発見を目指すのは、ベックの認知療法である。
- 4.受動的注意集中の状態、筋肉の緊張を解き、中枢神経や脳の機能を調整し本来の健康な状態へ心身を整える訓練法は、パールズのゲシュタルト療法である。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 11 「令和 5 年度能力開発基本調査」(厚生労働省、2024 年)の結果に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. 正社員または正社員以外に対してキャリアコンサルティングを行うしくみを導入している事業所は半数を超えている。
2. キャリアコンサルティングを行う目的については、正社員、正社員以外ともに、「労働者の仕事に対する意識を高め、職場の活性化を図るため」が最も多い。
3. キャリアコンサルティングを行った効果については、正社員、正社員以外ともに、「自己啓発する労働者が増えた」が最も多い。
4. キャリアコンサルティングを行う上で問題の内訳では、正社員、正社員以外ともに、「キャリアに関する相談を行っても、その効果が見えにくい」が最も多い。

問 12 「令和 5 年度能力開発基本調査」(厚生労働省、2024 年)の結果に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 仕事をする上で自信のある能力・スキルがあると回答した割合は、労働者全体で 8 割を超えている。
2. 自信のある能力・スキルの内容については、正社員では「チームワーク、協調性・周囲との協働力」が最も多い。
3. 向上させたい能力・スキルがあると回答した割合は、労働者全体で 8 割を超えている。
4. 向上させたい能力・スキルの内容については、正社員以外では「コミュニケーション能力・説得力」が最多となっている

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 13 職業能力開発に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 「ものづくりマイスター」制度は、ものづくり分野及び IT 分野に関して優れた技能、経験を有する者を認定・登録する制度であり、技能の継承や後継者の育成を目的としている。
2. 「職業能力評価基準」は、仕事をこなすために必要な「知識」と「技術・技能」に加えて、「成果につながる職務行動例(職務遂行能力)」を、業種別、職種・職務別に整理したものである。
3. 「社内検定認定制度」は、事業主又は事業主団体等が、その雇用する労働者等の技能と地位の向上に資することを目的に行い、文部科学大臣が認定する検定制度である。
4. 「技能五輪国際大会 (WorldSkills Competition)」の目的は、参加各国における職業訓練の振興と青年技能者の国際交流、親善を図ることにある。

問 14 「第 11 次職業能力開発基本計画」(厚生労働省、2021 年)に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 有期契約労働者等が正規雇用労働者等に転換等することを目的とした訓練の実施を推進するため、キャリアアップ助成金による訓練経費等の助成により支援する。
2. ニート等の青少年の支援の拠点である地域若者サポートステーションにおいて、地方自治体と協働した職業的自立に向けた専門的相談等の支援を行う。
3. 一般の公共職業能力開発施設で受入れが困難な重度障害者を受け入れる障害者職業能力開発校での職業訓練を引き続き推進していく。
4. 就職氷河期世代は、一人ひとりの事情に応じた長期的・継続的な支援を行うことが必要である。

第 27 回対策「みんな合☆総仕上げ模試」

問 15 次に挙げる用語のうち、「職務、組織、仕事と家庭、産業の壁を超えて移動する、自律的なキャリア発達」を表すものとして、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.プロティアン・キャリア
- 2.パラレル・キャリア
- 3.バウンダリーレス・キャリア
- 4.キャリア・プラトール

問 16 「副業・兼業の促進に関するガイドライン」(厚生労働省、2020 年改定)に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.使用者は、就業規則等において、長時間労働等によって労務提供上の支障がある場合には、副業・兼業を禁止又は制限することができる。
- 2.使用者は、就業規則等において、業務上の秘密が漏洩する場合には、副業・兼業を禁止又は制限することができる。
- 3.裁判例においては、労働者が労働時間以外の時間をどのように利用するかは、基本的には労働者の自由であるとされている。
- 4.事業主を異にする複数の事業場において、「労働基準法に定められた労働時間規制が適用される労働者」に該当する場合であっても、それら複数の事業場における労働時間が通算されない。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 17 ジョブ型雇用とメンバーシップ雇用に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.職務内容は、メンバーシップ雇用は職務記述書に明記されることが多く、ジョブ型雇用は限定されないことが多い。
- 2.等級制度は、ジョブ型雇用は職務等級制度が、メンバーシップ雇用は職能資格制度が馴染みやすい。
- 3.採用制度は、ジョブ型雇用は新卒一括採用などの定期採用、メンバーシップ雇用は欠員補充や職務発生時の雇用が中心となる。
- 4.賃金制度は、ジョブ型雇用は職能給、メンバーシップ雇用は職務給が馴染みやすい。

問 18 「労働力調査(基本集計)2023年(令和5年)平均結果の要約」(総務省統計局、2024年)に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.2023年平均の完全失業率は2.6%で前年と同率であった。
- 2.就業者数は全体では増加しているが、男女別に見ると、男性は減少、女性は増加している。
- 3.2023年平均の就業者のうち、前年に比べ最も増加した産業は、「医療、福祉」である。
- 4.非正規雇用労働者は男女ともに増加しており、役員を除く雇用者に占める非正規の職員・従業員の割合は30%台である。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 19 「令和 5 年版労働経済の分析」(厚生労働省、2023 年)の「雇用・失業情勢の動向」に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.2022 年の有効求人倍率は、2021 年に引き続き、新規求人が増加傾向で推移したため、前年より低下し、1.28 倍となった。
- 2.男女別に就業率をみると、男性は約 7 割、女性は約 5 割となっており、女性においては非労働力人口が男性に比べて 1,000 万人ほど多い状況である。
- 3.2022 年の労働力率及び就業率は 2 年連続で上昇し、完全失業率は低下している。
- 4.障害者の雇用状況について、雇用障害者数は、19 年連続で過去最高となっている。

問 20 最近の我が国の労働市場に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.「新規学卒就職者の離職状況」(厚生労働省、2023 年)によると、就職後 3 年以内の離職率は、新規高卒就職者、新規大学卒就職者ともに 30% 台であった。
- 2.『外国人雇用状況』の届出状況まとめ(令和 5 年 10 月末時点)」(厚生労働省、2023 年)によると、外国人労働者数を国籍別にみると、中国が最も多い。
- 3.「令和 6 年版高齢社会白書」(厚生労働省、2024 年)によると、65 歳までの高年齢者雇用確保措置を実施済みの企業は約 3 割である。
- 4.「令和 4 年派遣労働者実態調査の概況」(厚生労働省、2023 年)によると、派遣労働者を正社員に採用する制度がある事業所の割合は 5 割を超えている。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 21 労働条件に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- 1.すべての労働契約の締結時と有期労働契約の更新時において、就業場所・業務の変更の範囲を明示することが義務づけられている。
- 2.有期契約労働者について、無期転換ルールに基づく無期転換申込権が発生する契約の更新時には、無期転換申込機会と無期転換後の労働条件の明示が義務づけられている。
- 3.有期契約労働者が無期雇用契約に転換された場合であっても、別段の定めがない限り従来の労働条件が維持される。
- 4.親会社で雇用されていた有期雇用労働者が、同社の退職と同時にその子会社に有期雇用労働者として雇用された場合には、両会社の契約期間を通算して、無期転換ルールが適用される。

問 22 解雇に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1.解雇の種類には、普通解雇と整理解雇の 2 種類がある。
- 2.解雇を行う場合には、必ず最低 30 日分の平均賃金を支払わなければならない。
- 3.退職勧奨に応じて退職した場合には、自己都合による退職とはならない。
- 4.整理解雇は、会社側の事情による解雇であるため、解雇手続きの妥当性があれば認められる。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 23 賃金の支払いに関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- 1.原則として賃金は通貨で、直接労働者にその全額を支払わなければならない、どんな場合であっても現物で支払うことは禁止されている。
- 2.使用者の責めに帰すべき事由により労働者を休業させる場合においては、使用者は、当該休業期間中、平均賃金の 60%以上の休業手当を支払わなければならない。
- 3.管理監督者は労働時間、休憩、休日に関する労働基準法の適用が除外されるため、深夜業についても割増賃金の支払いは不要である。
- 4.賃金は、支給日を決めていれば、2 ヶ月に一度、6 ヶ月に一度といった形で支給することも認められる。

問 24 介護保険制度に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1.介護保険の財源は、公費 50%、保険料 50%とされている。
- 2.第 1 号被保険者の受給要件は、寝たきり等で介護が必要な状態である「要介護状態」と日常生活に支援が必要な状態である「要支援状態」であることである。
- 3.40 歳から 64 歳までの医療保険加入者も介護保険を受給できる場合がある。
- 4.介護保険の第 1 号被保険者の負担する保険料は、公平な負担を求める観点から、本人の所得額に関わらず一律である。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 25 学校教育法で規定する学校種に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.中等教育学校は、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を基礎的なものから一貫して施すことを目的とする。
- 2.義務教育学校は、小学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、義務教育として行われる普通教育並びに高度な普通教育及び専門教育を一貫して施すことを目的とする。
- 3.義務教育学校の修業年限は 9 年であり、中等教育学校の修業年限は 6 年である。
- 4.専門職大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。

問 26 「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(中央教育審議会、平成 23 年 1 月)に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.「基礎的・汎用的能力」には、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の 4 つがある。
- 2.「職業教育」とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる教育」であり、特定の活動や指導方法に限定されるものではない。
- 3.「キャリア教育」とは、「一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる教育」であるとされている。
- 4.「基礎的・汎用的能力」は、企業が新規学卒者に期待する「即戦力」と言える状態にまで学校教育を通じて育成することが求められる。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 27 「キャリア・パスポート」に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 児童生徒が、特別活動の学級活動(ホームルーム活動)を除いた各教科での学びを振り返り、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。
2. 小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、児童生徒の変容や成長を教師が個別評価できるよう工夫されたポートフォリオのことである。
3. 個人情報を含むことが想定されるため「キャリア・パスポート」の管理は、原則、各児童生徒及び家庭で行うものとする。
4. 学年間の引き継ぎは、原則、教師間で行い、校種間の引き継ぎは、原則、児童生徒を通じて行うものとする。

問 28 「職場における心の健康づくり～労働者の心の健康の保持増進のための指針～」(厚生労働省、独立行政法人労働者健康安全機構)に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 第 14 次労働災害防止計画では、メンタルヘルス対策に取り組む事業場の割合を半数以上にすることを目標にしている。
2. 第 14 次労働災害防止計画では、自分の仕事や職業生活に関することで強い不安、悩み又はストレスがあるとする労働者の割合を 50%未満にすることを目標にしている。
3. 四つのケアのうち、「ラインによるケア」では、労働者自身がストレスに気づき、これに対処するための知識、方法を身につけ、それを実施することが重要である。
4. 四つのケアのうち、「事業場内産業保健スタッフ等によるケア」では、職場の管理監督者が人事労務的な視点からの職場環境等の把握と改善、労働者からの相談対応を行うことなどが重要である。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 29 精神疾患の特徴に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 双極性障害は、ハイテンションで活動的な躁状態と、憂うつで無気力なうつ状態を繰り返し、躁状態で本人に自覚がないことが多い。
2. 依存症は、日々の生活や健康、大切な人間関係や仕事などに悪影響を及ぼしているにも関わらず、特定の物質や行動をやめたくてもやめられない状態のことをいう。
3. 統合失調症は、健康なときにはなかった状態が表れる陽性症状と、健康なときにあったものが失われる陰性症状があり、陰性症状には幻覚や妄想がある。
4. 発達障害は、脳の働き方の違いにより、物事の捉え方や行動に違いがあるために日常生活に支障がある状態をいい、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症(ADHD)、学習障害などがある。

問 30 中高年齢期における発達課題やライフ・ステージに関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. マーシャはアイデンティティ達成の様態を、アイデンティティ達成、モラトリアム、予定アイデンティティ、アイデンティティ拡散の 4 つで示した。
2. ユングは青年を、社会的に不安定な存在として、「周辺人」や「境界人」(marginal man)と呼んだ。
3. レビンソンは、それぞれの発達段階において、成長に役立つ要素と発達の危機の克服に焦点を当て、アイデンティティの概念を提唱した。
4. エリクソンは、成人の心理社会的発達を、安定期と過渡期が交互に表れるとし、成人前期から中年期への移行期を「人生半ばの過渡期」と呼んだ。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 31 シャインの「キャリア・サイクルの段階と課題」に関する次の記述のうち、「キャリア中期の危機(35～45 歳)」の段階の特定の課題として**最も適切なもの**はどれか。

- 1.できるだけ早く、文化を解読し、こつを知る
- 2.自分のキャリア・アンカーを知り、評価する
- 3.中年の危機及び家庭の空の巣問題にどう対処するか
- 4.配偶者により親密に暮らす方法を学ぶ

問 32 転機の理論に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

- 1.シュロスバーグは転機を、各年代や発達段階に共通したある発達課題や移行期があるという視点で捉えている。
- 2.ニコルソンのキャリア・トランジションのプロセスは、準備、遭遇、適応の 3 つの段階からなる。
- 3.プライアとブライトは、不確実な世界の中で、キャリアが偶然により不規則に変化するという視点を持ち、それぞれのキャリアを発展させていくことを推奨する、キャリア・カオス理論を提唱している。
- 4.ブリッジズは、転機のはじまりを何かが終わるときではなく、何かが始まる時であるとした。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 33 障害者の雇用に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- 1.「令和 5 年度障害者雇用実態調査結果」(厚生労働省)によると、従業員規模 5 人以上の事業所に雇用されている障害者数の内訳で最も多いのは、知的障害者である。
- 2.「令和 5 年度障害者雇用実態調査結果」(厚生労働省)によると、職業別にみると、身体障害者は生産工程の職業の割合が最も多い。
- 3.「令和 5 年度障害者雇用実態調査結果」(厚生労働省)によると、障害者を雇用する際の課題としては「会社内に適当な仕事があるか」が最も多い。
- 4.障害者の法定雇用率は、民間企業の場合、令和 6 年度は 2.3%であり、令和 8 年度からは 2.5%へ引き上げられる予定である。

問 34 個人の多様な特性の知識に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- 1.「令和 4 年就業構造基本統計調査」によると、育児をしている女性の有業率は 7 割を超えている。
- 2.「令和 4 年版働く女性の実情」によると、女性雇用者について産業別にみると、最も多いのは「卸売業、小売業」である。
- 3.「令和 4 年就業構造基本統計調査」によると、過去 5 年間に前職を離職した者の離職理由として最も多いのが、「自分に向かない仕事だった」ためである。
- 4.「令和 4 年版働く女性の実情」によると、令和 4 年の一般労働者(常用労働者のうち短時間労働者以外の者)の所定内給与額の男女間の賃金格差は、男性を 100 とした場合に女性は約 85 である。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 35 カウンセリングの技法に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. マイクロカウンセリング技法には、かかわり技法、応答技法、意識化技法、手ほどき技法、援助過程の繰り返しの段階があり、アイビーらによって開発された。
2. ヘルピング技法には、かかわり行動、かかわり技法、積極技法、技法の統合の 4 つに大別され、カーカフによって開発された。
3. コーヒーカップ・モデルは、通常は問題の把握、問題解決の段階、リレーションづくりの段階の順に展開され、國分康孝が提唱した。
4. システマティック・アプローチは、ピービーによるものとされてきたが、現在の研究ではカナダ政府より委託を受けたベザンソンとデコフによるものであることがわかっている。

問 36 カウンセリングの技法に関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

1. 「閉ざされた質問」は、はい、いいえなど一言、二言で答えられるような質問である。
2. 「くり返し」は、クライアントは薄々気づいているけれど、はっきりとは意識化していない感情などをカウンセラーが汲み取って言語化してフィードバックすることである。
3. 「確認」は、話し手の曖昧な話をできるだけ具体的にしていく作業のことである。
4. 「要約」は、カウンセラーが、ある程度聴いたクライアントの話のポイントをつかんで、自分が理解した内容をカウンセラー自身の言葉で伝える作業のことである。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 37 グループ・キャリアカウンセリングに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- 1.グループカウンセリングは、メンバー一人ひとりが解決すべき問題や目標への洞察を含め、その解決に向けて意思決定し、行動化する目的を持つ。
- 2.グループメンバー間の相互作用は重要であるが、相互作用しやすい人間関係を作ることが目標ではない。
- 3.グループ場面から恩恵を得られるクライアントと、そうでないクライアントが存在する。
- 4.カウンセリングの目標を達成するためには、グループプロセスだけで十分であり、個別のカウンセリングを組み合わせる必要はない。

問 38 ジョブ・カードに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- 1.マイジョブ・カードでは、登録した情報やジョブ・カードの情報を民間の就職・転職サイトにオンラインで登録できるサービスを提供している。
- 2.持っている免許・資格について記入するのは「職業能力証明シート」である。
- 3.これまでの学習歴・訓練歴について記入するのは「職業能力証明シート」である。
- 4.自分の価値観、強み、弱み、将来取り組みたい仕事や働き方などを記入するのは、「職務経歴シート」である。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 39 相談場面の設定に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.目標設定は、クライアントの考えを方向づけ、行動するのを援助する。
- 2.目標は明確に宣言され、かつ到達が困難であるとき、人を最も動機づける。
- 3.目標はカウンセリングの進展を客観的に評価するのに役立つ。
- 4.目標はカウンセリングを合理的に進めることに役立つ。

問 40 自己理解のための支援ツールに関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

- 1.VRT カードは、職業レディネス・テストをカード形式にしたキャリアガイダンスツールであり、職業興味、職務遂行の自信度、基礎的志向性の 3 つを確認できる。
- 2.キャリア・インサイトは大学生等や若年者向けに開発された、就職後の職業生活のイメージを伝えるためのグループワーク型の教材である。
- 3.厚生労働省編一般職業適性検査は、紙筆検査と器具検査により 9 つの適性能を測定する。
- 4.VPI 職業興味検査は、160 の具体的な職業に対する興味、関心の有無から、6 種の職業興味領域尺度と 5 種の傾向尺度を測定する。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 41 自己理解に関連する用語に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- 1.スーパーが提唱した「職業的適合性」は、能力とパーソナリティに分類され、パーソナリティは適性と技量に分類される。
- 2.日経連(現、日本経団連)は、労働移動を可能にする能力と、当該企業の中で発揮され、継続的に雇用されることを可能にする能力を「ジョブクラフティング」と名づけた。
- 3.マクレランドの研究により提唱された「コンピテンシー」は、高い業績に結びつく行動や思考の特性のことをいう。
- 4.ダウイスとロフキストの職場適応理論は、「適応コンピテンスと適応モチベーションの積」によって説明することができる。

問 42 職業情報に関連する公的サイトに関する次の記述のうち、最も不適切なものはどれか。

- 1.職場情報総合サイト(しょくばらば)では、職場改善に積極的な企業の残業時間(時間外労働時間)や有給休暇取得率、平均年齢などの職場情報を検索・比較できる。
- 2.職場情報総合サイト(しょくばらば)では、女性活躍推進法に基づき、女性の活躍促進に関する状況などが優良な企業を認定する「くるみん認定・プラチナくるみん認定」を取得している企業の職場情報を検索できる。
- 3.厚生労働省では、就職活動に役立つ、ハローワークインターネットサービス、職業情報提供サイト(日本版 O-NET)、職場情報総合サイトの 3 つのサイトを連携して提供している。
- 4.若者雇用促進総合サイトでは、若者雇用促進法に基づき、職場情報の提供を行っており、ユースエール認定企業の雇用管理の取組みなどを掲載している。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 43 意思決定に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. カウンセリング・プロセスの中でカウンセラーは、受動的ではなく積極的な役割を果たさなければならない。
2. 意思決定には必ず不確実性が伴うが、決定されたことを変えることは出来ず、最終的なものであると考える。
3. 意思決定のタイミングは、その内容と同様に重要であり、早ければ早いほど良い。
4. 意思決定のプロセスは、人間関係をつくる段階と意思決定する段階の 2 つに分かれる。

問 44 学習の категорияに関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

1. 学習方策における技能(スキル)は、職業やキャリアを自分で探索、選択、決定、形成するのに必要な知識や技能である。
2. 学習方策における行動パターンとは、クライアントが自覚している習慣的なパターンであり、不平・不満を言う、引き伸ばしなどのクライアントの習慣である。
3. 学習方策における意欲は、目標達成に向かおうとする意思のすべてであり、意欲を持って行動しなければ目標は達成できないことをクライアントに知らせる必要はない。
4. 学習の過程は長期にわたるため、キャリアコンサルタントは、始めから終わりまで関与し続ける必要がある。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 45 相談成果の評価に関する次の記述のうち、**最も適切なもの**はどれか。

1. 目標に達成したため、クライアントの同意を得ることなくカウンセリングを終了した。
2. クライアントの成長の評価は、クライアントの実際の行動の変容よりも、クライアントの感情に焦点を置くのが好ましい。
3. クライアントがカウンセリングに依存することは、一般的に好ましいこととされる。
4. カウンセラーの評価の基準には、カウンセラー自身、クライアントの受け止め方、スーパーバイザーなどの第三者の 3 つの視点がある。

問 46 キャリア形成及びキャリアコンサルティングの教育並びに普及活動に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. キャリア形成・リスクリング相談コーナーでは、ジョブ・カードを活用したキャリアコンサルティングを無料で実施している。
2. キャリア形成・リスクリング相談コーナーでは、人材開発支援助成金を活用する企業・団体に対する支援を行っている。
3. 地域若者サポートステーションでは、専門相談員である就職支援ナビゲーターが、マンツーマンで就職活動をサポートしている。
4. 地域若者サポートステーションは、15 歳から 49 歳までの働くことに悩みを抱えている人に対して、就労に向けた支援を行っている。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 47 治療と仕事の両立支援における関係者間の連携に関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- 1.両立支援コーディネーターは、治療と仕事の両立に向けて、支援対象者、主治医、会社・産業医などのコミュニケーションが円滑に行われるよう支援する専門家である。
- 2.治療と仕事の両立支援にあたっては、本人の私傷病である疾病に関わるものであることから、一般的に、働く本人の家族を連携の対象としてはいない。
- 3.主治医から提供される情報が不十分で支援に支障がある場合、キャリアコンサルタントは本人の同意の有無に関わらず、主治医から追加情報を収集できるとされている。
- 4.周囲の同僚や上司等にも一時的に負荷がかかるため、就業上の措置及び治療に対する配慮を実施するために必要な情報を限定することなく開示し、理解を得る必要がある。

問 48 スーパービジョンに関する次の記述のうち、最も適切なものはどれか。

- 1.複数の人からスーパービジョンを受けることは、自己研鑽の観点から好ましくない。
- 2.スーパーバイザーはスーパービジョンにより自己理解を深め、内的な気づきを深めることがある。
- 3.クライアントとの相談中に感じた不安や疑問をスーパーバイザーに伝えることは好ましくない。
- 4.スーパーバイザーはスーパーバイジーに対して評価的な介入を行うことはない。

第 27 回対策「みんな☆総仕上げ模試」

問 49 キャリアコンサルタントとしての倫理と姿勢に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. 守秘義務や個人の意思を尊重することは大切だが、自殺の危険性がある場合には緊急の対処を行う必要がある。
2. セルフ・キャリアドックにより得た情報を人事部門及び関連部門(産業医等)と共有する場合のルールを整備する必要がある。
3. 従業員との面談において企業側の法令違反やハラスメントなど、企業側が組織的に対応すべき内容があれば、原則として本人の同意を得ることなく企業側へ伝える必要がある。
4. 相談者から要求があったため、面接記録や心理記録の結果を開示した。

問 50 令和 6 年に改正されたキャリアコンサルタント倫理綱領に関する次の記述のうち、**最も不適切なもの**はどれか。

1. キャリアコンサルタントは、相談者を人種・民族・国籍・性別・年齢・宗教・信条・心身の障がい・文化の相違・社会的身分・性的指向・性自認等により差別してはならない。
2. キャリアコンサルタントは、キャリアコンサルタントとしての品位と矜持を保ち、法律や公序良俗に反する行為をしてはならない。
3. キャリアコンサルタントは、訓練を受けた範囲内でアセスメントの各手法を実施しなければならない。
4. キャリアコンサルタントは、キャリアコンサルティングを行うにあたり、相談者に対して、キャリアコンサルティングの目的及びその範囲、守秘義務とその範囲、その他必要な事項について、必ず書面により説明を行い、相談者の同意を得た上で職責を果たさなければならない。